

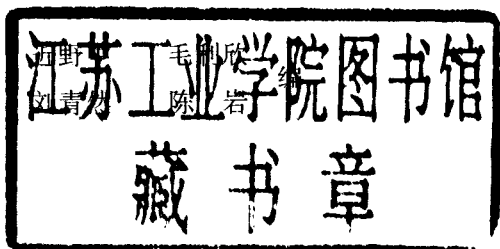
日语 拟声词 拟态词 例解词典

近野中 毛利欣 编
刘青然 陈 岩



商 务 印 书 馆

日语拟声词拟态词
例解词典



商务印书馆

1996年·北京

RÌYǔ NĪSHÉNGCÍ NĪTÀICÍ

LĪJIĒ CÍDIÀN

日语拟声词拟态词例解词典

近野中 毛利欣 编
刘青然 陈 岩

商 务 印 书 馆 出 版

(北京王府井大街 36 号 邮政编码 100710)

新华书店总店北京发行所发行

南京理工大学激光照排公司照排

中国科学院印刷厂印刷

ISBN 7 100 01767 X/H · 516

1996 年 5 月第 1 版

开本 787×1092 1/32

1996 年 5 月北京第 1 次印刷

字数 246 千

印数 6 000 册

印张 4 3/4

定价: 6.30 元

编 者 的 话

我们在日本工作期间曾寻访过鲁迅先生学习、工作过的地方——仙台市。那个地方不仅以美丽、迷人的景色吸引着我们，更使我们感动的是那里的日中友好活动开展得非常广泛、深入。在仙台，我们有幸结识了近野中国语研究所的朋友们。所长近野中先生是一位年逾花甲的老人。她热爱中国和中国文化，十分热心于日中友好事业。她在自己家里办起了汉语研究所。一批批从事日中友好活动的日本朋友到那里学习汉语。她亲自任教，也请中国留学生教汉语。同时，在仙台留学、进修的中国留学生到那里学习日语。她自己教，也请别人教。这里简直是仙台市日中友好活动的中心。周末和节假日，中日两国朋友会聚在这里，一起学习、交流、联欢。通过这些活动，增进了互相了解，加强了友谊。

在仙台期间，我们和近野先生也有过交流。我们互相谈起学习日语和汉语的甘苦，交流了教授日语及汉语的经验和体会。

经近野先生的提议，我们决定合编一本“日语拟声词拟态词例解词典”，帮助中国朋友学习日语和日本朋友学习汉语。原稿是我们在日本工作期间编写的，回国后又几经修改，先后经历了近三年时间。

参加原稿编写的除近野中先生外，还有该研究所的毛利シン先生。仙台市一些从事日中友好活动的高级中国语教员，如须田く先生和菊池顺子先生也曾给予指导和帮助。经常在该研究所学习的一些日本朋友和中国留学生也为此书作出过贡献。尤其是中国科学院大气物理所的石广玉博士给了我们热情的帮助。

在编写过程中,我们参考了浅野鹤子先生编,金田一春彦先生解说的《拟音语·拟态语辞典》(日本角川书店出版)及天沼宁先生编的《拟音语·拟态语辞典》(日本东京堂出版)。为力求准确,每个词的释义部分是参照前者编译的。

大连外国语学院前院长刘和民教授欣然为我们审阅、修改原稿并亲自为此书作序。我们由衷地向这些老师和朋友表示感谢。

刘青然 陈岩

1993年春

序

在世界各民族语言中,都有模拟声音、状态的词语,日语把这一类词语叫作“擬音語”、“擬態語”。所谓模拟,并不是机械地模仿、再现原来的声音(状态),而是用文字(日语用假名)表现出来,成为一个固定的词。用文字表现的声音(状态)不管多么形象、逼真,总不能象录音(录像)那样与原来的音(态)完全相同。机械模拟出的音(态)(如口技)不是语言,而用文字表达的才是“擬音語”、“擬態語”。比如,世界上同种动物的叫声虽然相同,但作为“擬音語”在各种语言里表现却不一样。象山羊的叫声,英语为 bleet;日语为めうめう;汉语则为咩、咩。再如青蛙的叫声,英语为 croak;日语为ころころ;而汉语则为呱呱。也正是由于这种表现上的不同,我们才有研究之必要。

日语中“擬音語”、“擬態語”非常发达。无论拥有数目之多,应用范围之广,还是使用频率之高,创造手法之灵活,都是其它语言所少见的。

“擬音語”所表现的常为人的哭笑、吞吐、动作等声音;人以外的生物发出的声音;自然界自然发出的音响;无生物自然地、或受外力作用发出的音响。如:表现乌鸦的叫声かーかー(嘎、嘎);表现铁制物等猛烈撞击发出的沉重的声音が一ん(と)(呼、哐)等。在“擬音語”中,又进一步把表现生物声音的称作“擬声語”,如狗叫声きゃんきゃん(汪汪);人大哭声うわーん(哇)等。“擬音語”、“擬声語”汉语可一并译做“拟声词”(象声词)。

“擬態語”所表现的是包括人在内的生物、无生物、自然界一切事物的样子、现象、变化、运动、成长等样态。如:きらきら(闪闪发光);いらいら(焦燥)等。有人还进一步把表示生物状态的称为“擬容語”,把用来表示人心理状态,诸如喜、怒、悲、哀、乐的称为“擬情語”。“容”也好,“情”也好,总的还是属于状态的范畴,因而均可译作“拟态词”(象态词)。

关于日语拟声词、拟态词的作用,日本学者不乏论述。概括起来就是赋予了语言音乐感、节奏感、真实感,使语言具体、形象、生动、鲜明,增加语言的表现力、感染力。拟声词、拟态词应用得当,可以收到如见其貌、如闻其声的效果,因而日语中,特别是在口语中被大量应用着。而漫画、报纸上应用犹繁。由于日语拟声词、拟态词音的组合关系合理,易于为人们(日本人)理解,所以允许即兴创造。日本作家荻原朔太郎、北原白秋、草野心平、宫泽贤治、荻原井泉水等人的作品中都不乏自创拟声、拟态词之例。

日语拟声词、拟态词音节构成类型比较复杂。按天沼宁先生的分类，有从一拍到八拍的四十七种。如一拍的ツ、八拍のカタカタコトコト等。而最多的为四拍，共二十种类型。如：イライラ、アタフタ、キンキラ、カサコソ、チョコマカ、ガタピシ、スタコラ、ゴタクサ、ホンワカ、カラリツ、カラリン、ウッスラ、ウッカリ、ゴットン、アングリ、スラーリ、ジローツ、ガラーン、フーワリ、ガーガー。本书笔者按这种分类法对浅野鹤子先生的《擬音語、擬態語辞典》作了粗略的统计，发现在近一千六百四十八个词条中，四拍节的有近七百四十条，约占百分之四十五。

“擬音、擬態語”虽非直接模拟声音状态，但它的音和义之间却有一定规律。据金田一春彦先生的分析，母音ア、イ、ウ、エ、オ中，エ音极少；イ音常表现小的声音、快的运动，ア音则有相反的倾向。子音当中，浊音常表现钝、重、大、脏；清音常表现尖、轻、小、美；k、t 音表现坚硬；s 音表现摩擦；r 音表现粘滑；h、p 表现通畅；m 音表现柔软。又有学者指出，“擬音、擬態語”加ト作副词多表示动作（ぎゅっと握る、さっさと帰る），加ニ多表示状态（へとへとに疲れる、めちゃくちゃにこわれた）；加スル作动词时，多表示心理状态。我们大量接触“擬音、擬態語”，就会逐渐熟悉它具有的一定规律，较好地理解和掌握、运用它。

日语中的“擬音、擬態語”作为词语的一类已有着牢固的地位，而汉语中的拟声词（象声词）还只能说处于半成熟状态，“拟态词”（象态词）的概念尚无。比如打算盘声，在日语中已固定为“バチバチ”，而汉语中却无固定说法。因人而异，可能说成“噼噼啪啪”，也可能说成“噼啦啪啦”，还可能说成“啪啪”、“啪啪哒哒”等。由于汉语中拟声词、拟态词的贫乏，给我们理解、翻译日语“擬音語、擬態語”带来一定的困难。

音声、意义完全或基本相同的，原样照翻，比较简单：

△ばんばん（声）梆梆（敲门声）。

△チエツ（声）啐。チエツなんであんなやつを恐れることがあろうか。/啐！我们怎能怕他。

△カパカパ（态）嘎巴。御飯粒が皆カパカパ鍋の底にこびりついた。/饭粒都嘎巴到锅底上了。

△コロコロ（态）骨碌。ドラム罐がコロコロころがりおちた。/油桶骨碌滚落了。

对译词明显的，也不成为困难：

△ポーッ（声）昂（汽笛声）。

△ドキドキ（声）扑通扑通（心跳声）。

△ふらふら(态)摇摇晃晃。

难的是汉语对译词不明显,或直译不符合汉语表达习惯,这样就要在准确理解原义的基础上,根据上下文的关系,意译成适当的汉语。

△しわしわ身体をくねらせるようにして何回もお辞儀ばかりしていた。/连忙扭着身子三番五次地直行礼。

△あの人の猫なで声を聞くとざわざわして鳥肌がたつ。/听到那个人撒娇的声音,身上都起鸡皮疙瘩。

△この部屋は風がすーすー通り抜けるので、夏は涼しく過しやすい。/这个房间通风好,夏天居住凉快舒服。

△ずばり御名答。/老兄高见!

近野等四位先生经过二年多的努力,终于使这本小词典与读者见面了。这本词典虽然不是宏篇巨著,却颇具特色。第一、它收词较多,几乎等于日本同类辞典所收词条数,只是对一些不常见的生僻词条有所删削;第二、它的例句别具一格,生活气息浓郁,似乎在谈家常,可以使人从话中学语;第三、词条的中文译释较好:能找到对译词的均冠以对译词,不足处加一定说明;实在难以找到对译词的,则作了较为详细的说明,以使读者能揣摩到日语词条的本义。

作为我国第一部日汉拟声词、拟态词词典的出版,无疑有着一定的意义。它将成为具有初、中级日语水平的读者、大专院校学习日语的学生、社会上自学日语者的工具书、参考书,也将对日语“擬音語”、“擬態語”的深入研究起到抛砖引玉的作用。

日语是拟声词、拟态词的宝库,我们应当发扬勇于探索的精神,去打开宝库的大门,取瑰宝,以丰富我们的民族文化。

刘和民

1993年春于大连

用法说明

一、本词典的词目按日语“五十音图”的顺序排列。

二、词性置于紧接词目后的()号内,“声”表示日语拟声词,“态”表示日语拟态词,“声·态”表示同时兼具二者。如:

かーかー(声) がにがに(声·态)

三、同一词目有两种以上词解时,用词解序号①②③……来表示。

四、本词典对词目尽量设立汉语对应词,对应词位于词解序号之后,只有一个词解时则列在词性符号()之后,同一词解有复数对应词时,分别列出,中间用逗号隔开。对实在难以设立对应词的词目,则在词解序号后(有多种词解时)或词性符号()后(只有一种词解时)的()号内写出该词的大意。

五、本词典各词目均举有例句。例句前加“△”号,例句后有相应的中文译文,例句与译文之间用“/”隔开。

六、词目在例句中出现时,用“~”号代替,词目叠用时用“~~”号代替,“~(と)”型词目在句中用“~と”形式表示。如:

“がつつ(と)”在句中表示为“~と”

七、同义词、近义词依意义列在一个词解或整个词目的例句之后,复数时中间用顿号隔开。

八、本词典后附词目索引。

目 录

编者的话	(I)
序	(Ⅲ)
用法说明	(VI)
正文	(1)
索引	(132)

あ

あーん(声・态) ①啊(嘴张大时发出的声音或状态)△演説会場では、長くて飽(あ)きてしまったのか、〜と大きなあくびをしていた人もあちこち見られた。/在演讲会上,可能因时间长而令人感到疲倦,到处都可以看见人们在啊啊地打哈欠。△運動会で父兄(ふけい)たちが無心(むしん)に〜と大きな口を開けて、パン食い競走に挑(い)とんでるのがおかしかった。/在运动会上,家长们认真地张着大嘴,进行着吃面包赛跑,那样子真可笑。②哇哇(小孩大哭声或哭的样子)△祭の入混(ご)みで母親にはぐれたのか、子供が〜と泣いていた。/在节日的人群中,一个可能是找不到母亲的孩子正在哇哇地哭着。△夕方になっても母親が帰らないので、寂しくなった妹は座敷(ざしき)の隅(すみ)で〜と泣いていた。/黄昏了,母亲还没回来,妹妹感到寂寞,坐在屋角里哇哇地哭。△突然大きな犬にほえられて、子供はびっくりして、〜と泣いてしまった。/突然一条大狗汪汪地叫,孩子吓得哇哇地哭了起来。

あたふた(态) 慌慌张张,仓皇。△会社からの迎えの車と聞いて、父は食事もそこそこに、〜と出掛けて行った。/听说公司来接的车到了,父亲草草吃了饭就匆匆忙忙地走了。△弟の交通事故の急報に、母はエプロン姿のまま、〜と病院に向った。/接到关于弟弟出了交通事故的紧急通知,妈妈连围裙也没解下就慌慌张张地到医院去了。△かれは〜と駅へ急いだため、座席に座ったとたん、お土産(みやげ)を忘れてきたことに気がついた。/他慌里慌张地往车站赶,刚坐上座位,发现因着急忘了带礼物。

あっさり(态) ①淡,浅。△夏には、油っこいものより冷麦(ひやむぎ)のような〜したのがおいしい。/夏天,象凉面那样清淡的食品比油腻的东西好吃。△この絞(しぼ)りの着物の色合は、〜していて夏らしく涼しげだ。/这件绞染织物做的和服颜色淡,使人感到凉爽,是一件好夏装。②素净,朴素。△“この白地の梅の花の着物の方が、柄が〜していて、お前に似合うよ”と母は言った。/妈妈说:“这种白底带梅花的和服花样素净,很适合你穿。△この家は見た目は平凡だが、〜しているので、かえて使いやすい。/这座房子看起来很一般,但由于朴素实用,住起来反而方便。③脾气、性格爽朗、干脆、果断;轻率;意志脆弱。△あの係(かかり)長は、たとえ一時ひどく怒っても、あとは〜しているから、部下に好(す)かれる。/那位股长即使一时发了脾气,但过后从不计较,人们都喜欢他。△失敗をした時は、その場で〜と詫(わ)びた方が、かえて好感を持たれる。/事情没有做好,当场就干干脆脆道歉的话,反而会使人有好感。△その未亡人(みぼうじん)は遺産の一億円を〜とある学校に寄附(きふ)をした。/那个寡妇非常爽快地把一亿日元遗产捐献给了一所学校。△かれは契約書に〜サインをしてしまった後で、よく読めばよかったのにと後悔(こうかい)した。/他在契约书上轻率地签了字,过后就后悔了,心想当时仔细看看就好了。近义詞:さっぱり

あっぱあっぱ(声・态) ①吐噜吐噜,挣扎(人或动物被水呛得喘不上气来,拼命挣扎的样子)△海水浴場で、〜しておぼれかかっている子供を先生が助けてくれた。/在海水浴场里,老师把拼命挣

扎、险些被淹死的孩子救了上来。△かわいそうに水槽(すいそう)の中で金魚が～している。/金魚在水箱里挣扎着,显得很可怜。②(处在极端困难的境地,经济上非常拮据或遭到不幸时,无法摆脱或打破这种境况而挣扎、努力的样子或心理状态)△近年来は不景気で、どこも金策に忙しく、～している倒産寸前(すんぜん)の会社もあるようだ。/近年来,由于不景气,到处都为筹措款项而奔忙,也有一些公司苦苦挣扎,濒于破产。△締切り間際(まぎわ)の原稿が重なり,某作家はねじり鉢巻(はちまき)で～している。/快要到期的稿子堆了一大叠,某作家正在拼命地赶。△最近の物価上昇に、わが家(や)の家計は赤字続きで～の状態だ。/最近物价上涨,我们家也连日入不敷出,已处于十分拮据的境地。

あむあむ(态) 细细咀嚼。△“ご飯はちゃんとして食べるのですよ。”と母は幼

いわが子にいい聞かせた。/母亲叮嘱她的小孩子说:“吃饭要好好嚼烂才行。”△わが家の2歳の子は“～”と言っておやつをねだる。/我家那个两岁的孩子哼哼叽叽地嚷着要零食吃。

あんぐり(态) 张着大嘴;目瞪口呆(嘴张得大大的样子。有时也用来比喻张口状的物体。此外,还表示吃惊、惊恐或发呆的样子)△疲れと暑さで、みんないびきをかいたり、～と口を開けたまま、昼寝をしている。/由于疲劳和炎热,大家都打着呼噜,张着大嘴睡午觉。△かの女の心臓の強いには、皆はただ～と口を開けたままあきれはてていた。/大家都为她的脸皮之厚目瞪口呆。△ざくろの実が口を～開けて、秋の空に真赤に色づいていた。/秋天,石榴果咧着大嘴,熟得通红。△ガラスで切ったかれの足傷口は～開いて大変痛々しかった。/他的脚被玻璃割破了,伤口开裂着,痛苦极了。近义词:あーん

い

いじいじ(态) 畏缩,打怵(觉得自己不行,因而不能大胆、自然地待人接物,行为拘谨)△成績表を見せる度に、兄は一番、お前は劣等生…。とばかりにされた弟は、～したひねくれた性格になった。/每次给家里人看成绩单时,他们就说:“你哥哥最好,你却是个劣等生…”。被斥责的弟弟养成了畏缩的性格。△“いつまでも～と迷っていないで、早く腹(はら)を決めなさい。”と父に注意された。/父亲提醒我:“不要老是犹豫不决,要赶快拿定主意。”近义词:うじうじ、おずおず

いそいそ(态) 高高兴兴,雀跃(心情愉快地做自己所期待的事情)△はくはお年玉をもらうや、～とプラモデルを買いに行った。/我一拿到压岁钱就乐颠颠

地买塑料玩具去了。△かの女はおめかしして、デートの待ち合わせた場所に～と出掛けていった。/她打扮得漂漂亮亮,高高兴兴地到约会地点去了。△母は編んでもらったセーターを着て、妹は友だちの所へ～と見せに行った。/穿着妈妈织的毛衣,妹妹兴高采烈地让朋友看去了。

いちゃいちゃ(态) 狎昵调笑(男女间互相打闹调笑,使旁观者不堪入目)△いくら新婚さんでも、汽車の中などで、恥ずかしげもなく～されると、乗客はどこを向いたらよいか分からずいやな感じだ。/即使是新婚夫妇,要是在火车里不知羞耻地搂搂抱抱、打闹调笑,别的乘客也会看不下去,感到厌恶的。△職場結婚のかれらでも、見上げたものだ。社内で

は～などしているのを一度も見たことがない。/尽管他俩在本单位恋爱、结婚,但从未见过人家在单位内狎昵调笑,真令人佩服。△～という言葉が子供たちの間にもはやり出して,男女の生徒が一寸話していても,～しているとはやされるそう。/据说“调情”这个词在孩子中间也流行起来了,男生和女生即使说上几句话,大家也要说他们在“调情”。

いらいら(态) ①焦躁,着急;不舒服(事情不如意或因担心某事而放不下心。)△お母さんは,歯が痛むので,～して,子供たちをしかってばかりいる。/母亲牙痛,心情烦躁,总斥责孩子们。△約

束時間になっても来ない友だちをぼくは～しながら待っていた。/我焦急地等待着没按约定时间到来的朋友们。△今日はお見合だというのに,当の娘はのんびり構(かま)えているので,母親は～し怒り出してしまった。/今天要相亲,可是女儿却没事儿似的,一点也不着急,母亲沉不住气,生起气来。近义词:じりじり,そわそわ。②觉得刺痛,有异物感。△風邪をひいたのか,のどが～する。/也许是感冒了,嗓子有点不舒服。△あくの強い山菜などを食べると,のどが～することがある。/常吃很涩的野菜嗓子不太舒服。

う

うおーん(声・态) ①嗷嗷,哇哇(从远处传来的动物的吼声)△ライオンが動物園で,～～と吼えているのを聞き,はくはまるで本当にアフリカに行っているような気がした。/听到狮子在动物园里嗷嗷地吼叫,我觉得就好像在非洲似的。②哇哇(许多人发出的嘈杂声,同时夹杂着人声在空间里回响)△バスの中で余りに～～と子供が大声で泣くので,乗客はその母親の方を見ながら,いらいらしていた。/在公共汽车里,一个孩子哇哇地大声哭闹,乘客们都不耐烦地看着他们母子俩。△またも十点満点…。オリンピック体操競技館内に,～とセンヒーションの渦(うず)。/又是一个满分——十分…,奥林匹克体操比赛馆里喧声四起,全场轰动。

うかうか(态) 悠悠忽忽,糊里糊涂(做事考虑欠周到;马马虎虎的样子)△原稿の締切り日は迫っているのだから,わたしは～してはおられない。/交稿的日子快到了,我不能漫不经心了。△一年は長いと～しているうちに明日は

大晦日となってしまう。/原以为一年时间很长,可是稀里糊涂地明天就是除夕了。△まだ早いと思って,～していたら,予定のバスに乗り遅れてしまった。/我以为还早,所以不紧不慢地,结果,没赶上预定的班车。近义词:うっかり,うかつ

うきうき(态) 兴致勃勃,兴高采烈(由于高兴以及有所期待而心情愉快,情绪不安定的样子)△今日は友人の誕生日に招かれるので,町子は朝から～している。/今天,町子因被邀请参加朋友的生日庆祝活动,从早上就高兴得坐不住了。△今日はテストの答案が返され,点数が意外によかったので,光子(みつこ)は～しながら,家に帰った。/今天发考卷,分数比想像的要好,光子乐颠颠地回家去了。△ブラスバンドの演奏する行進曲が流れると,競技場の応援席の人びとも,なんとなく～してくるものだ。/吹奏乐团一开始演奏进行曲,比赛场里拉拉队座位上的人们不由得兴致勃勃地坐不住了。近义词:いそいそ

うじうじ(态) 寡断, 犹豫(不果断, 犹豫不决的状态) △あんな陰気(いんき)で～した男性は, 女性に好かれませんよ。/ 那样阴郁寡断的男子, 女人是不喜欢的。△かれは男のくせにいつも～して, 少しも頼りにならない。/ 他总像个女人似的犹犹豫豫, 一点儿都指望不上。△“いつでも～考えてないで, 気乗りしないのなら, 早くお断(ことわ)りした方がよいのですよ。”と母は息子に言った。/ 母亲对孩子说: “可不要总心神不定地想过来想过去, 如果不愿意的话, 还是早点儿回绝了好。”近义詞: いじいじ

うじゃうじゃ(态) ① 咕咕容容, 蠕动; 拼凑(同类生物大量聚集一起的形状) △土の中を掘っていったら, みみずが～出了。/ 往土里挖下去, 蚯蚓咕咕容容地钻了出来。△海底の岩には, 海藻やら軟体動物やら, いろいろの物が～ついている。/ 海底的岩石上密密麻麻地长着海藻、软体动物等各种各样的生物。② (对小的、使人看了不愉快的东西大量聚集, 或人群聚集在一起等状态的轻蔑说法) △たとえ～集まってきたても, しっかりした指導者がいないうごうごのしゅうでは, 何にもならない。/ 即使拼凑了大批人马, 如果没有一个坚强的领导的话, 也只是是一群乌合之众, 什么事也干不成。近义詞: うようよ

うずうず(态) 发急, 心里发痒(想干一件事, 老是惦记着, 因而心神不定的样子) △かれは宴会が始まると, 得意のものをきかせたくて, 指名されるのを～して待っている。/ 宴会一开始, 他就想让大家听他那自鸣得意的噪音, 急不可待地等着点他的名。△友人は今年こそ学級委員になりたいと, ～しているのに, 今年も危(あぶ)ないようだ。/ 我的朋友今年一定要当班委, 心里发痒, 但是今年大概也没有希望。△十二月になると, スキーがしたくて, 家中(いえじゅう)みんな雪の降るのを～して待っている。/ 到了12月就想滑雪, 一家人都迫不及待地盼着下雪。近义詞: むずむ

ず

うっ(と)(声) 啊(呼吸堵塞时发出的声音以及低声呻吟或十分高兴时发出的声音) △“～, 由美子さんが今年も金賞よ。”と掲示板(けいじばん)を見るや, 級友たちは喜びの声を上げた。/ 同学们一看布告牌就高兴地大声喊起来: “啊, 由美子今年又得了金牌。”△ガス心中(しんじゅう)のあった部屋は, ひどい臭気で, われわれは思わず鼻にも口にも手を当て, ～と息を止めた。/ 用煤气自杀的那间屋子, 煤气味薰得我们不由自主地捂住鼻子和嘴, 不敢出气。△ごみ箱のあたりは, 野菜や果物の皮の腐(く)った, 酸(す)っぱいになったにおいが～ときたので, 子供たちは鼻をつまみながら, 走って通った。/ 由于蔬菜和水果的皮腐烂, 垃圾箱附近散发出一股酸臭味, 孩子们捂住鼻子跑了过去。

うっかり(态) 马虎, 不留神(稍一疏忽而忘了该做的事情或做了不该做的事情的心情) △つい調子に乗って, わたしは～かれの秘密を人に漏らしてしまった。/ 说着说着来了劲儿, 我无意中把他的秘密泄露给了别人。△わたしは台所で, 野菜を切りながらほかのことを考えてみて, ～指先を切るところだった。/ 我在厨房里一边切菜, 一边想别的事情, 一不留神差点儿切了手指头。△メモまでしてきたのに, ～わたしはその買物を忘れていた。/ 尽管把要买东西记在纸条上了, 可一时马虎, 还是忘了买那件东西。同义詞: うかうか、うかつ 近义詞: ぼんやり

うっすら(态) 稍稍, 微微; 薄, 淡(事物的程度低、细小) △今朝の初雪(はつゆき)で, 東北の山々は～と雪化粧をしたことだろう。/ 今天早晨的第一场雪, 大概会给东北的群山披上一件薄薄的雪装吧。△かの女も, ～とお化粧をする年頃になり, ますますきれいになった。/ 她到了略施脂粉的年龄, 显得越发漂亮了。△病気の回復に向かって, やつれたかの女の頬にも, 近頃では～と赤みがさ

してきた。/她的病正在好转，憔悴的脸颊上最近也稍稍显得有些红润了。

うっとり(态) 出神，心荡神驰(倾心、迷恋于自己喜爱的事物，对其他毫不在意的样子)△中国杭州市の西湖を訪れる外国人は、その広大さと美しさに～とならない者がいるであろうか。/游览中国杭州西湖的外国人无不为其辽阔和美丽而心荡神驰。△世界名画展で《最後の晩餐》に～と見入っていたら、後からぼくの肩をほんとはたく者がいた。/在世界名画展览会上，我正对《最后的晚餐》这幅画看得出神，有人从身后拍了一下我的肩膀。△王先生の美しい中国語にわれわれはただ～と聞きほれていた。/王老師の一口漂亮的中国話，我们都听得入了迷。

うつらうつら(态) 打瞌睡，迷迷糊糊(半醒半睡的样子，尚未入睡时迷迷糊糊的样子)△せっかくの映画も途中～していたので、半分ぐらいしか見なかったようだ。/特意来看电影，看了半截却昏昏欲睡，所以，只看了一半。△昨夜は～しながら勉強していたとみえ、ノートの字はまるでみみずのようだ。/看样子昨晚他是一边打瞌睡，一边学习的，笔记本上的字简直象蚯蚓。△バスに揺られて、ちょっと～していたら、危なく乗り越すところだった。/公共汽车摇摇晃晃的，稍一迷糊，差点儿坐过了站。近义词：うとうと、とろとろ

うとうと(态) 迷迷糊糊(微睡或将要失去知觉的状态，或因疲劳、生病而常常处于一种迷迷糊糊、神志不清的状态)△わたしはオンドルの上に座って、つい～と眠ってしまったようだ。/我坐在炕上，迷迷糊糊地好象睡了过去。△床(ゆか)に入って～しかけたのに、電話の鳴りつづける音でわたしはまた、目を覚ましてしまった。/我钻进被窝，刚有点迷糊就被响个不停的电话铃声吵醒了。△昨夜は病人の看護で、母はちよつと～しただけで、ほとんど寝ていないようだ。/昨天晚上护理病人，母亲只迷糊了

一会儿，几乎一点儿也没有睡。同义词：うとつ。近义词：うつらうつら

うねうね(态) 蜿蜒，弯弯曲曲，高低起伏(象田埂那样高低起伏，慢而蜿蜒、曲折地伸延的样子)△尾根(おね)づたいに～と続く山道を登ってその名も“雲湧く谷”と呼ばれる所へ出ると、紅葉が燃えるように美しかった。/登上沿山背蜿蜒伸展的山路来到号称“云湧之谷”的地方，只见红叶如火，美丽极了。△風のある日、波止場(はとば)に立って海をじっと見ていたら、～と無限に続く大波に、まるでのまれそうな、恐しい気持ちになった。/刮风的日子，站在码头上凝望大海，无边无际翻滚的大浪仿佛要将你吞没，使人心生恐惧。△日光(にっこう)の華嚴(かげん)の滝を見に行くのには、あの～と続く、仮名文字の数だけあるという“いろは坂”を登って行かなければならなかった。/去看日光的华岩瀑布，一定要爬那个弯弯曲曲的跟假名数字一样多的47个山坡。近义词：くねくね

うはうは(态) 喜悦，兴奋(有抑制地体验某种极大的满足、喜悦和愉快)△“こんなに忙しいのに、テレビを見て、～笑っているなんて…”と父に注意された。/父亲训我：“这么忙，还看电影，嘻嘻哈哈地笑，这怎么行呢…”△店に美人の人気歌手が入ってくると、店員たちは～喜びをこらえて二人をじっと見ていた。/两位很漂亮、很红的歌唱家走进店里来，店员们抑制住自己的喜悦心情，目不转睛地看着他们俩。△今日はボーナス支給日として、社内はどこでも、～うれしい期待にわいていた。/今天发奖金，公司里到处都充满兴奋期待的气氛。

うふふ(声) 嘻嘻，哈哈(由于可笑或高兴而不自觉地发出的笑声)△娘は父親にとがめられているのに、～とごまかし笑いをしている。/尽管女儿被父亲申斥，可她仍在嘻笑地搪塞着。△正月の奇席(よせ)はどこも顧客の～という陽

気の笑い声に満ちていた。/新年的曲艺演出场上,到处都充满观众哈哈的欢笑声。△仮装行列にかれが女装して出てきたので、ほくは〜と笑わずにはおられなかった。/在化装游行中,她男扮女装,我终忍不住嘿嘿地笑了起来。同义词:うふっ

うようよ(态) 咕咕容容,蠕动(生物塵集在一起蠢动的样子,令人有一种不快的感觉。也常用于对人群聚集的轻蔑说法)△卵からかえった幼虫(ようちゅう)が〜とはいまわっている。/由卵孵化出来的幼虫咕咕容容地在蠕动着。△水際(みずぎわ)に、糸みみずのようなものが〜していた。/水边一种象蚯蚓似的虫子在蠕动。△お蚕(かいこ)さまは、わらだの中で〜うごめいているさまは、都会の子にはこわいらしい。/城市里的孩子看见蚕在蚕床上乱爬的样子可能有些害怕。近义词:うじゃうじゃ

うらうら(态) 晴朗,明朗(形容春天温暖、和煦的阳光)△見渡す限りの菜(な)の花畑に〜と日が照り、かげろうがもえているのは、のどかな風景だ。/太阳灿灿地照在一望无际的油菜花田上,地面上阳气升起,一片晴和的春天景象。△〜と暖かな春の一日、幼い私たちが隣村の愛宕(あたご)山へ初めての遠足をした喜びは今なお忘れられない。/在一个和煦、温暖的春日里,少年时代的我们曾到邻村的愛宕山郊游,初次远足的喜悦至今仍未有忘。△〜とした春の日の午後、わたしは友だちとれんげの花で首飾りを作って楽しんだ。/在一个和暖的春天下午,我和朋友们愉快地用紫云英花做花环项圈玩。

うろうろ(态) 徘徊,来回转悠(无目的地来回走动的样子或用于精神上动摇的时候,急得乱转)△火事のあと、焼け跡(あと)を〜していたその男が、やはり放火の犯人だったという。/据说着火以后,在火灾场上来回转悠的那个男人就是纵火犯。△妻の出産の日、夫はなにをしてよいのか分らず、家の中をた

だ〜していた。/妻子生孩子的那天,丈夫不知道该做些什么,只是在家里来回转悠。△初めての新宿駅で、出口を〜さがしていたら、親切な駅員さんが、“あっちですよ。”と教えてくれた。/第一次到新宿车站,正在来回找出口时,热情的车站工作人员告诉我:“出口在那边!”同义词:うろちょろ。近义词:まごまご

うわーん(声) 噯,轰轰(大声的哭泣声以及很多人的声音汇集在一起发出的回响)△洞くつ内で友人の名前を呼ぶと、〜という大きなこだまとなつてかえってくる。/在洞里喊朋友的名字,噯地一声,传来巨大的回响。△石につまづいて転んだ弟は、びっくりして、〜と大声で泣いた。/弟弟被石头摔倒,吓了一跳,哇地一声大哭起来。△工場内は〜という機械の騒音で人の話などなかなか聞きとれない。/工厂里机器轰轰地响,噪音很大,人们说话很难听见。近义词:うおーん

うんうん(声・态) ①噯,噯(在使劲儿时或忍住疼痛、痛苦时的用力呻吟声及其样子)△手術の麻酔が切れたのか、父は〜苦しそうにうなり出した。/可能是手术麻醉效力过去了,父亲不断“噯噯”地发出痛苦的呻吟声。△坂道にさしかかった荷車をほくは〜言いながら、押して手伝った。/我嘴里“噯噯噯”地帮着推那辆正在上坡的排子车。②(呻吟声及呻吟的样子。随声附和或表示同意、答应)△祖父は孫たちの言うことを〜と言いながら、聞いていた。/爷爷一边听着孙子们的讲话,一边“噯噯”地答应着。△忙しいせいか、かれは妻の問いかけにも〜と言っただけで、車に乗って出掛けてしまった。/也许是忙的缘故,对妻子问他的话,他只是“噯噯”了两声便乘车外出了。同义词:うん

うんざり(态) 厌烦,厌烦(对食物、气候或某种事物等达到厌烦的程度;由于翻来复去讲述同一事物或持续出现同一种状态而感到厌烦,不希望再继续下去)△あの人の甲(かん)高い声に毎日悩ま

されるのには～する。/每天都为他的尖嗓子所苦恼,烦死人了。△夏休みが開けたとたん,テスト,テストの連続で,全く～だ。/暑假刚结束就接连地考试,

真使人感到厌烦。△あの先生はいつも同じ説教(せっきょう)で～だ。/那个老师总是重复相同的说教,讨厌死了。近义词:げんなり

え

えっちらおっちら(态) 吃力(因身体或行李、物品太重,腰腿不好而感觉行走吃力,步履蹒跚的样子。有时也可转意用于事物进展缓慢的情况。)△アパートへの引越手伝いに行き,テレビ,テーブル,本箱などを～三階まで運び上げた。/我去帮人往公寓搬家,费了好大劲

儿才把电视机、桌子、书箱搬上三楼。△信心深いお年寄方がつえをついて,汗をふきふき～お山参(やままい)りに来ていた。/虔诚的老人们拄着拐杖,挥汗如雨,吃力地赶来拜山。近义词:よたよた

お

おおい(声・态) 呜呜,哇哇(嚎啕大哭的声音及其样子)△可愛い娘が結婚して外国へ旅立ちの日,父親は人目もはばからず,～泣いた。/心爱的女儿结婚后动身去国外的那一天,父亲在众人面前毫无顾忌地呜呜哭了起来。△一人息子を交通事故で亡くした両親は,～声をあげてない。/独生子因交通事故死去,父母亲悲痛地嚎啕大哭。△いたずらっ子に棒で追い回され,坊やは～泣きながら,母のもとへ帰ってきた。/被淘气的孩子拿着棍子追赶的小男孩,“嗷嗷”地哭着回到妈妈身边。近义词:おんおん,わーわー,わんわん

おずおず(态) 战战兢兢,提心吊胆△父に叱られ,家飛び出しはしたものの,日も暮れて寂しくなり,おなかはすくし,家に帰ろうと,～玄関のドアを開けた。/挨了父亲的骂,从家里跑了出去,可是天黑了又感到恐惧,肚子也饿了,“回家去吧!”于是,战战兢兢地打开

了大门。△被告は,うつむいたまま,～と法廷に入ってきた。/被告低着头战战兢兢地走进了法庭。△ぼくが校長室の前で～していると,中から“早くお入り”と言う校長先生のこやかなお声が聞えた。/我提心吊胆地站在校长室前,屋里传来校长亲切的声音,“快点儿进来吧!”近义词:おどおど

おたおた(态) 惊慌失措(对意外发生的事情不知所措,慌张的样子。遇到平常从未经历过的事,不能迅速作出判断和立即采取行动)△歳末(さいまつ)セールでデパートはごった返し,見習いの店員は,～するばかりだった。/年终大拍卖时,百货公司弄得乱七八糟,实习店员只是手忙脚乱,不知所措。△隣の家が火事だと聞き,ぼくは119番に電話すべきを110番に電話し,～しているうちに,火はどんどん燃え広がった。/邻居家着火,我本应该拨119的电话,却拨了110,在慌乱不知所措之中,火势蔓延了。